



るらてる



2022年
9月
No.897

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp

■発行人■ 李明生 koho@jelc.or.jp
■印刷■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40円(郵税を含む)
■振替口座■ 00190-7-71734

説教 「こうされたから」と

「こうされたのに」の生き方

日本福音ルーテル高蔵寺教会・復活教会・掛川菊川教会・新霊山教会 牧師 徳弘浩隆

「あなたたちは寄留者を愛しなさい。あなたたちもエジプトの国で寄留者であった。」(申命記10章19節)



私のいる教会の一つでは、雨漏りや耐震問題で補修工事が始まりまし

た。トラックが2台来て、礼拝堂を覆う足場が組

まれました。朝の挨拶後は牧師館で仕事をしまし

たが、夕刻外に出ました。気になる事があつたから

です。彼らの会話に、外国語風日本語も聞こえたの

です。「外国人の人もおられる?」と責任者に聞く

と「はい、1人います。ブラジル人です」とのこと。

「紹介してよ、話してみたい」とお願いして青年に会

いました。ポルトガル語で

話かけると皆びっくり。彼は喜んでくれ、故郷の

こと、日本での生活、家族との死別や離別、でも何

とかやっていることなどを、二気に話してくれまし

た。私もブラジルに10年いて苦楽が色々あつたこと

など、共有する濃厚な時間でした。「今度はいつウ

チに来る?いつでもおいで。おしゃべりや食事しよ

う!」と名刺を渡し握手しました。トラックに分

乗し会釈をしながら帰っていきま

した。トラックにイクのブザーを数度鳴らして「チャオ! (さいな

ら)」と手を振って彼も帰っていきました。

新しく日本に来た様子の外国人の人を見ると、

声をかけたくなります。私たち夫婦も外国で苦

楽を味わった「ガイコク人」の経験があるからで

しょう。日系人だけでなく技能実習生のアジア諸

国の人たちにも教会で日本語を教え、手続きや仕

事のことでも通訳をしたりもしています。泣いたり笑つたりする彼らとの時

間は、私をも支えてくれ

ます。旧約聖書で「寄留者を愛せよ」と神は言われま

す。「選ばれた民」は異教の他国人とは対決し、旧

約の神は排他的で厳しいだけというのはい思ひ込み

のようです。その説明ともいえる続きが心にしみ

ます。「あなたがたもかつて寄留の民だったのだから)」とあるからです。

飢饉で食糧危機の際、食糧を備蓄していた隣の

大国に行き、感動の再会と和解をしたヨセフの兄弟や家族たちはエジプト

に身を寄せました。現代が他国に流入するニュー

ス映像を思い出します。時が過ぎて異国での待遇

は劣悪になり、神に選ばれたモーセと共に脱出

します。それを思い起こさせ、次の世代にも伝えな

がら、もう一度神の救いの歴史と律法を説明し、従

うように決断を迫るのが申命記です。

「自分がいやなことは、人にはしない」とか、「良くしてもらったから、良くしてあげよう」と教えられ

ました。しかしそれは裏返せば、「人にひどい仕打ちをされたら、仕返しをしよう」という気持ちにもなるのです。どうしたらその連鎖は断ち切られることができるのでしょ

う?それは、「こうされたから」という気持ちから

「こうされたのに」への転換が必要で

す。そのために来られたのがイエス・キリスト

です。「自分を愛する人を愛するのは当然

だ。敵を愛しなさい」といわれ、その通りに生き、その通りに十字架で死んで

いかれたのです。「敵を愛する」、それは

私たちにはできません。もう一度「こ

う」で、「こうされたから」という言葉が必要

です。今度は、自分にひどいことをする人を思い出

しながら「こうされたか

ら」ではなく、神や人にひどいことをした何をやっ

てもダメな自分なのに赦してくれたキリストを見

上げて「キリストにこうされたから」と思うと、私

の中で新しい自分が少し始まります。申命記の言葉

とキリストの姿が呼応するように心で響きます。

平和を祈り献金も送りますが、戦禍は続きます。コロナ禍で孤独や難しさを味わい生活も苦しく

⑩「嬉しかったのかなあ」

伊藤貞奈



「あなたの御言葉が見いだされたとき/わたしはそれをむさぼり食べました。

あなたの御言葉は、わたしのものとなり/わたしの心は喜び躍りました。

万軍の神、主よ。わたしはあなたの御名をもつて/呼ばれている者です。」(エレミヤ15:16)

遺品の整理をしていました。引き出しを開けた時、色々な書類の中に昔私が配った誕生日カードがしまつてありました。

しかも手で書いてあり私を手書きで字を書けたのは10年近く前のこと

で、なんだか懐かしいような意外なような...

その方にカードを配った

め、お部屋を訪問しお部屋のドアをノックしてもお返事はなく、それでもお部屋のドアの鍵が開いていればお構いなく入ります。がいつもベッドで寝ておられる

た。本当に寝ておられるのか目をつむっておられるだけなのかはわかりませんが「お誕生日おめでとう」

ございます。カード置いておきますねと毎年お部屋にカードを置くだけでした。

しかも字が書けなくなつても味気ないから申し訳ないなと思いつつもパソコンで文字を打ち

ました。まさか10年近くもたつてしかもいつも無視されてたのか嫌がられていたのかと思つていた人の

遺品から大切にされてきたであろうかたちで示されるのは驚き半分嬉し

半分複雑な気持ちでした。続けていて良かった。

よく考えると私たち一人ひとりも思われ続けています。誰も気付く人がいなくても。



教会を章刈りを手伝ってくれた時の日本語教室の外国メンバーたち

「紹介してよ、話してみたい」とお願いして青年に会いました。ポルトガル語で話かけると皆びっくり。彼は喜んでくれ、故郷のこと、日本での生活、家族との死別や離別、でも何とかやっていることなどを、二気に話してくれまし

た。私もブラジルに10年いて苦楽が色々あつたことなど、共有する濃厚な時間でした。「今度はいつウチに来る?いつでもおいで。おしゃべりや食事しよう!」と名刺を渡し握手しました。トラックに分乗し会釈をしながら帰っていきました。トラックにイクのブザーを数度鳴らして「チャオ! (さいなら)」と手を振って彼も帰っていきました。

日本ルーテル神学校・ルーテル学院大学
オンライン「一日神学校」

「心と福祉と魂と」
9/23(金) 午前9時から

YouTubeおよびZoomにて配信

プログラム

- ①開会礼拝
- ②シンポジウム「ルーテルのミッション〜心と福祉と魂と」
- ③キャンパス紹介
- ④神学生を交えたオンライン懇親会(要事前申込)
- ⑤3つの講義動画の配信

*詳細は3面をご覧ください。



「わたしは、あなたたちのために見張りを立てて耳を澄まして角笛の響きを待て」と言った。」(エレミヤ6:17a)

6月5日(日)のペンテコステに不思議な体験をしました。早朝に目覚めると左耳にかなり大きくザアーツというホワイトノイズが聞こえていたの

クに行くとき外耳にも中耳にも鼓膜にも問題はなく内耳の問題とのこと。診断は原因不明の「突発性難聴」。過労やストレス、睡眠不足などで起こりやすいそうです。4分の1は治り、4分の1はそのまま、残りは悪化するとのこと。聴力検査をしても

「突発性難聴」

です。テレビの放送終了時のあの音です。「耳鳴り」でした。ペンテコステですから一瞬聖霊が降つて天とのチャンネルが繋がって通信が始まったのかと思いましたが、それはパウロの言う「第三の天」体験だったのかもしれない。翌日耳鼻科のクリニッ

らうと左耳の聴力がかなり落ちていて、ちょうど人の声と重なる1000Hzと2000Hzのあたりの音域が聴き取りにくい状態でした。ステロイド薬に再検査。処置が早く、祈りが聴かれたのでしょ

は、私にどこかやましい気持ちがあるせいだ、「反省反省」に聞こえて苦笑いした次第です。今回の経験を通して聴覚で苦労しておられる方々が少なくないことを知りました。この「議長室から」の主題は「聴」です。「耳と目と心をついにし、それを十分に用いて王(神)の命に従う」というところにあるのです。今回耳鳴りによって人の声がかき消されてしまうことには困惑しました。それは日蝕や月蝕同様に「神の蝕状態」でした。7月18日に聖公会の修養会で「老い」について話す機会がありました。その後半には3人組での分団の時間がありません。ある分団では3人

のうち2人が最近「大動脈解離」から回復されたという貴重な体験をお話しされました。同じ部屋の中でいくつもの分団が同時に話していますのでその語がなかなか聴き取れず、2度確認してようやく分かりました。今まで気づかなかつただけかもしれませんが、私にとつては初めての「耳が遠くなる」体験でした。今「難聴になることを怖れている自分があります。母が晩年によく私に「譲治歳を取るといふことは大仕事なのよ」と言っていたことを思い出します。向こう側から届けられる声の響きにこれまで以上に耳を澄ませてゆきたいと念じています。

「教会讃美歌 増補」解説



②7 創作賛美歌解説7 増補36番「わたしは祈ります」・増補38番「いつもよろこんで」

森康高 (日本キリスト教団 水元教会)

私がこの曲を作ったのは2011年でした。

当時の私は、芸術大学の作曲科を卒業した事もあり、賛美歌や

オルガン曲を夢中で作曲しておりました。私は作詞をするのが苦手でしたので、歌詞は聖書の言葉を引用して作っております。

そんな中、宗教改革500年を記念して『教会讃美歌増補』を作成するにあたり、オリジナルの賛美歌を募集している事を知り、書き溜めていた作品を

送ったのがこの曲です。私は、結婚して家庭を持つことができないので、楽譜を通して、私がこの世に生きていた証を残すことが夢であり、目標でした。それが今回の『教会讃美歌増補』として実現され、両親が生きている間に私の作曲した楽譜を見せ、「生きた証を残すことができました」と報告でき、ささやかな幸せを感じております。

私には、大好きな賛美歌があります。それと同じように、この賛美歌が、兄弟姉妹の一人にでも、大好きな賛美歌と言われるような存在になってくれれば、作曲家としてこれ以上嬉しいことはありません。

世界の教会の声

浅野直樹 Sr. 世界宣教主事

市ヶ谷教会スオミ教会牧師 バイデン大統領がオーガスタ・ヴィクトリア病院を訪問

アメリカのバイデン大統領が今年7月13日から15日にかけてイスラエルを訪問したことはニュースになりましたが、このときパレスチナ自治区をも訪れたことは日本ではあまり報道されませんでした。

た。ルーテル世界連盟(LWF)によるとバイデン大統領はイスラエルとパレスチナ自治区をそれぞれ1日ずつ訪問して、その貴重な1日にパレスチナにあるひとつの病院へと向きました。オーガスタ・ヴィクトリア病院(略してAVH)として、LWFが運営している病院です。

「パレスチナの方々に質の高いサービスと医療を提供しているのを直接目にする事ができて光栄に思います。これらの病院はパレスチナの医療を支える屋台骨です」と述べました。

AVHは東エルサレムにおける医療の中核として、ヨルダン川西岸とガザ地区に住む500万人の人々の治療にあたっています。がん治療全般、糖尿病、腎臓病などが主な治療領域で、特にがん患者に対する放射線治療をしているのはパレスチナ自治区でここだけです。LWFは過去70年以上にわたりAVHの運営に携わっています。

バイデン大統領がAVHを訪れたのは晩年によく私に「譲治歳を取るといふことは大仕事なのよ」と言っていたことを思い出します。向こう側から届けられる声の響きにこれまで以上に耳を澄ませてゆきたいと念じています。

バイデン大統領は今年7月13日から15日にかけてイスラエルを訪問したことはニュースになりましたが、このときパレスチナ自治区をも訪れたことは日本ではあまり報道されませんでした。



オリブ山に位置するAVH



AVHで人工透析を受ける患者と看護師



エキュメニカルな交わりから

⑥URM(都市農村宣 教委員会)

秋山仁
(ディアコニアセンター
喜望の家・豊中教会
牧師)

URM(都市農村宣
教)委員会は、1967

年3月に、日本キリスト
教協議会(NCCJ)の
第20回総会において、U
IM(都市産業宣教)委
員会として設置され
たのが始まりです。

労働者伝道あるいは
職域伝道への取り組み
は、各教派によって戦前
から行われていました
が、戦後1957年以
降、関西労働者伝道委

員会日本キリスト教団
などが活動を始めまし
た。そして、NCCJで
も、1964年に「産業

社会における一致のあか
し」という主題で、都市
と産業社会における宣
教を主題として、協議会
が開かれています。

産業化・都市化が進む
一方で、様々な社会の歪みや
問題も浮き彫りになっ
てきました。とりわけ高度
経済成長期の日本では、
工業化と公害の問題、都
市における労働問題、そ

して農村の解体・縮小・過
疎といった問題が焦点化
されてきました。それはま
た、日本のみならず、東ア
ジア全体でも同様で、60年
代から70年代にかけては、

軍事政権下における「開
発独裁」などの問題が大
きく取り上げられてしま
した。1973年には、東

アジアキリスト教協議会
で、UIMをURMと改称
し、都市や産業社会の問
題だけでなく、改めて農村
をも含めた現代の課題に
取り組み始めます。こうし
た動きを受けて、198

0年にNCCJでも、U
IMを現在のNCCJ-U
RM都市農村宣教委員
会へと改称して活動を継
続してきました。

さて、URM委員会は、
関西を中心として、NC
C加盟教会・教団によっ
て、各地域で取り組まれ
ている課題や運動を結ん
でいく、エキュメニカルな
ネットワーク的働きです。

わたっています。日雇
労働者や非正規雇用労働
者、移住労働者の問
題、性的少数者などに
対する差別、女性の問
題、沖縄の基地問題や
成田空港を巡る問題、
核問題の廃絶、開発と

農村の問題、農漁村の
保全と共生社会の実現
を目指す働き、等々。

また、NCCJ-U
RMは、韓国のNCCK-
URMと、韓国の民主化
闘争や在韓日系企業の
労働問題への取り組み
などを通して、深い連帯
関係を築いてきました。

1978年には、第1回
日韓URM協議会が、「産
業社会における現代宣
教の課題」を主題にソウ
ルで行われ、この日韓協
議会はすでに今年で12回
を数えます。日韓両国の

社会に共通する課題を
共有しています。

NCCJ-URM委員
会の取り組み、それは、個
別の課題への取り組みを
通じて、キリスト教信仰
に基づいた社会正義と公
正の実現を目指すもので
す。URMでは、解放の神
学や民衆の神学、あるいは
フェミニスト神学など
の実践に触発されながら、
従来の教会の「宣教の
歴史」を反省し、これら
の教会の宣教の姿を考え
ています。

数年に一度、全国協議
会を開催し、2021年
10月には、第22回目
の全国協議会が「食・農・命」
を主題に、共生庵(広島・
三次市)を会場に行われ
ました。

今後の働きにも是非
ご注目ください。

日本ルーテル神学校

神学生修養会報告

李明生

(神学教育委員長・
田園調布教会牧師)

日本福音ルーテル教
会の神学教育・牧師養
成のため、いつも本當
に沢山の祈りとお支え
を頂いておりますこと
に心より感謝申し上げ
ます。

2022年度前期神
学生修養会が6月6日

(月)・7日(火)にか
けて、ルーテル教会につ
いて学びを深めること
をテーマに行われまし
た。修養会は神学生主
体で計画され、河田優
チャプレンをはじめ神
学校教員の協力によっ
て進められました。神
学教育

委員は2日目のプロ
ラムにオンラインにて参
加しました。

1日目はJELLAの
働きについて知ること
を中心に、東京・恵比
寿のJELLAミッション
センターで渡辺薫事務
局長よりJELLAの紹介
や国際的な社会福祉の
実践、課題と挑戦につ
いてお話しを伺い、ま
た難民支援のためのシ
ェルター「JELLA(ジ
ェラ)ハウス」を見学
しまし

た。2日目は神学校
を会場に、浅野直樹Sr.
世界宣教主任からLWF
の働きについて、また
宣教師であり神学校の
教師でもあるアンドロ
リュウ・ウイルソン先
生と、サラ・ウイルソ
ン先生から宣教師とし
ての働き、牧会者とし
ての教会への関わり
についてお話しいた
だきました。講義の後
にはグループに分か
れて2日間を通して考
えたいことを求め、お
祈りください。

オンライン「一日神学校」のご案内

今年ルーテル学院
「一日神学校」は9月23
日(金)午前9時から、
オンラインで開催されま
す。「心と福祉と魂と」
をテーマに、YouTubeに
よる配信プログラム(申
込不要)と、Zoomによ
る懇親会(参加には申

込が必要)が行われま
す。参加費は無料です。
皆様のご参加をお待ち
しております。

※当日は祝日により職
員の体制が限られてい
る関係で、メールやお電
話による問合せはお
受けできません。また、
学校も閉鎖してありま
すので、ご来校はお控
えいただきますようお願い
いたします。



二つの特別プログラム

- ①11時30分
神学生を交えたオンライン懇親会
(Zoom双方向型配信・事前申込が必要です。
申込詳細については、所属教会の牧師にご確認ください。)
- ②11時30分
三つの講義の録画映像を配信
(YouTubeオンデマンド配信・申込不要)
(1)「人を愛するためのセルフケア」高城絵里子准教授
(2)「難民・移民の生活課題と支援」原島博教授
(3)「パンデミックと礼拝—神との出会い」平岡仁子講師
講義の録画映像は、9月23日11時30分～11月30日
まで視聴できます。懇親会へ参加をご希望の
方はそちらを優先していただき、講義の録画映像を午後
あるいは後日視聴いただくことも可能です。

オンライン「一日神学校」 プログラム:9月23日(金)

9時
開会礼拝(YouTubeライブ配信・申込不要)
司式・河田優チャプレン
説教・立山忠浩校長
奏楽・湯口依子講師
後援会会長からの挨拶・小澤周司会長

9時30分
シンポジウム
「ルーテルのミッション〜心と、福祉と魂と」
シンポジスト 市川一宏教授、
ジェームス・サック教授、金子和夫教授

11時
キャンパス探訪〜学長と共に
石居学長による
キャンパス紹介動画(約10分)



カトリック第16回「シノドス」総会に向けての

日本福音ルーテル教会からの応答③

エキュメニズム委員会

2 共通の課題 (前号からの続き)

国内においては、各教会がすでにそれぞれ独自に活動しています。また日本キリスト教協議会には、日本福音ルーテル教会は加盟教団として、日本カトリック司教協議会にはオブザーバーとして、特に教会内の支援組織とは緊密な協力体制を取りながら課題に向き合ってきた歴史があります。日本の教会はいずれも小さなものですが、小さい群れであるがゆえに、その宣教開始の時から、様々な協力し合って課題を担ってきた歴史もあります。私たちは先人たちの働きを感謝するとともに、その歴史を深く認識したいと考えます。というのは、あえて言えば、日本の教会が「小さい」ということすらも、今後の世界の教会にとって、とても大きな恵みに満ちた先例の一つになるのではないかと思うからです。なぜなら後述しますが、たとえば2014年や2017年のカトリック教会とルーテル教会や聖公会とが合同の礼拝ができたというこ

とは、世界の教会史上、画期的な出来事だったと思うからです。「小さな教会でも、いや「小さな教会だからこそ、心をこめて協力ができるといいう一つの事実を世界の教会に示すことができたのです。「小さい」ということは、「大きい」とより、むしろ神の恵みを豊かにうけることすらありうるのです。それゆえ、小さな日本のキリスト教会は一致合つていくことが期待されているものと考えます。

また、私たちがこのような課題に力を合わせる時の共通の認識は、平和の問題の大切さです。ウクライナでの戦争でわかる通り、国家は必ずしもすべての人を親切にすることとはできてこなかったという事実です。そして、このことはアウグスティヌスやルターが「神の国・地の国」という言葉で説こうとした問題の一つです。今日、政治や経済にたずさわる個人の、団体の、そして何より国家の責任は重大です。そして、このことをキリストを信じる教会の問題として捉えるならば、教会がこの社会におい

て「市民として「憐れみの循環」「連帯の循環」の一部として働きの場があることを意味しています。ルターが先に引用した『キリスト者の自由』の中で、私が「隣人のために二人のキリストとなる」という時、それはまた「隣人はあなたのための一人のキリスト」となり得るということとを意味しています。そこには、上から援助するという視点ではなく、自分自身も援助を必要としているという「自己認識」があります。憐れみと連帯は私たちのだれもが人生の中で必要としているのです。



カトリック「シノドス」第16回通常総会のテーマに関するヒアリング」および「シノドス第16回通常総会」にちなむ合同礼拝」が行われました

カトリックでは「世界代表司教会議(シノドス)第16回通常総会」に向けて各国の司教団が提出する報告書に、「ともに歩む教会のためー交わり、参加、そして宣教」というテーマに関して、キリスト教諸教派からの意見を盛り込むため、7月21日(木)東京・麹町(聖イグナチオ)教会で開催されたカトリック司教総会の中で、日本聖公会・日本福音ルーテル教会・日本キリスト教協議会の代表者からの応答のヒアリングが行われました。(日本福音ルーテル教会からの応答内容については、本紙において7月号より分割して掲載中です。)

また同日18時より司教総会の会場であった聖イグナチオ教会主聖堂にて4者による合同礼拝が、前田万葉カトリック枢機卿の司式のもと、菊地功カトリック東京大司教、高橋宏幸日本聖公会東京教区主教、大柴譲治



司教総会でのヒアリング



平和のロウソクを灯す大柴譲治JELC議長



合同礼拝の共同司式者

日本福音ルーテル教会議長、吉高叶日本キリスト教協議会議長の共同司式によって行われました。新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため、出席者を限定しての合同礼拝となりましたが、エキュメニカルなキリスト教会の一致と連帯を確認する貴重な機会となりました。

なお、このヒアリングならびに合同礼拝については、カトリック中央協議会のインターネットサイトにて動画が公開されています。

<https://www.cbcc.jp/holic.jp/2022/08/02/25120/>



第35回 教会音楽祭

あなたの未来には希望がある

2022年10月22日(土) 14時から、
YouTubeでオンライン開催します!

集まって歌うことの難しさを経験したわたしたちを、神様は今も愛し、わたしたちの未来に希望の光を与えておられます。今こそ賛美の歌を共に歌いましょう。

教会音楽祭とは
キリスト教の教派を超えて神さまへ賛美をささげようと1968年から続けられている、日本最大の教会一致(エキュメニカル)礼拝です。

音楽祭はこちらで!

YouTube (YouTube) 「第35回教会音楽祭」チャンネル
10月22日(土) 14時から、音楽祭動画の配信が始まります。
申込不要、インターネット環境があればどなたでもごらんいただけます。

あとからでも見られるよ!

主催: 第35回教会音楽祭実行委員会
カトリック教会/カンパランド長老キリスト教会/日本基督教改革派教会(有志)
日本聖公会/日本長老教会(有志)/日本バプテスト連盟/日本福音ルーテル教会
<http://cmf.holy.jp/>